

- ・ジンバブエの写真から教師の問いかけ。「笑顔が印象的な写真が多い。経済的物質的な貧困が平和や幸せの尺度であろうか。」
- ・協力隊隊員へのお礼の手紙を書く

(4) 成果と課題

成果

生徒は、始めてみるアフリカの写真に興味を示し、どのグループも真剣にフォトランゲージを行っていた。生徒は職業訓練校の学生が同じ筆記具を使っていることに気づき疑問に思うなど、生徒の視点と大人の視点の違いにも気づかされた。

生徒は興味深い資料が提示されたため、写真や資料の読み取りや、ワークシートの記述も熱心に取り組むことができた。教材は生徒自身が主体的に考える展開であったため、教師の驚きや感動が生徒に自分のこととして伝えられたと思う。

ここで生徒が課題とした「貧富の差」については、今後の歴史や公民の学習の布石になっていくことと思う。学校の授業で学ぶことが現実の社会生活と結びついていることに気づく機会となった。

課題

ジンバブエについて多面的に学ばせようとしたため、焦点が散漫になったところもあったようだ。個人的にはジンバブエについて「教育」をテーマにおいて考えてみたいと思っている。教育熱心な国柄で就学率が高いことや現状に興味があるが、教材化は課題が多いと思う。また生徒の興味を考えると、生活文化は最も惹かれるテーマのようだ。

生徒が考えた開発途上国への支援の方法については、「募金をする」というのが多かった。身近なこととして答えたと思う。今後は、募金したお金の行方や、使われ方などにも目を向けさせていきたい。また、エコ・省エネ・エコクッキング・クラスの平和などいままでの学習が生かされている回答もめだった。

エイズの資料にあった「女性の経済力の低さ」という一文が、理解できない様子であった。大人の視点との違いを感じた。

今回の学習で多くの生徒が感じた「貧富の差」については、今後帝国主義・植民地支配からモノカルチャーの生産について、また貿易ゲームなどをすることによって理解を深めていきたい。

【実践授業風景】



【グループワーク】



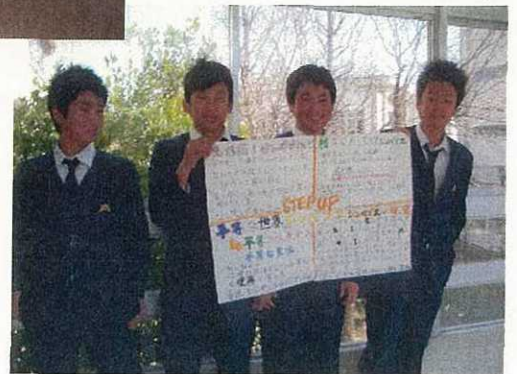
ジンバブエでの貧富の差



日本とはだいぶちがうジンバブエ



1つの国に2つの世界



STEP UP ジンバブエ

資料Ⅱ

1. 日本とジンバブエ共和国 (Republic of Zimbabwe)

	面積	人口	首都	人種	言語
日本	38万km ²	12687万人	東京		日本語
ジンバブエ	39万km ²	1,290万人	ハラレ	シヨナ族(75%) ンデベレ族(20%) 白人(1%)	英語 シヨナ語 ンデベレ語

	GNI(10億) 国民総所得	5歳児未満死亡率	出生時余命	HIV% 15-49	インター ネット	成人 識字率
日本	4,390 兆円 34,510/人	5 (1,000人あたり)	82	0	483 (2003)	...
ジンバブエ 予推	200	100	65	80%	32	21%
ジンバブエ 現算	6	123	39	25%	43	90%

* GNI 国民総所得

2. 略歴

- ・ 第1次世界大戦後 イギリス領南ローデシア
- ・ 1965年 植民地首相 イアン・スミスによってローデシア共和国
独立を宣言。人種差別政策。
- ・ 1980年 総選挙。ジンバブエ共和国成立。ムガベ首相が就任。
- ・ 1985年 大統領制に移行。ムガベ大統領。黒人と白人の融和政策。
- ・ 2000年 白人所有の大農場を強制収用。
長期政権・一党支配に対する不満から治安の悪化。

3. 経済

・ 主要産業

- (農業) たばこ・砂糖・メイズ 綿花
- (鉱業) プラチナ・クローム・アスベスト・ニッケル
- (工業) 食品加工 金属製品 機械

・ 総貿易額(2004年) 貿易品目(2003年)

- (輸出) 14.36億ドル たばこ 金 プラチナ フェロアロイ
- (輸入) 16.55億ドル 機械類 工業製品 化学品 自動車